

後継者、人手不足

×

障害者の就労

# 事業承継、一挙に解決

障害者の就労支援に取り組む福岡市の企業「B. Continue (Bコンティニュー)」が、後継者不在と人手不足に悩まされていた市内の水産加工会社「福岡丸福水産」を承継し、障害者の働き場確保と業績回復につなげている。島野広紀社長(50)は「障害者を企業の戦力として、社会に定着させたい」と強調する。

## 福祉企業、働く場確保 水産会社の業績アップ

福岡市



島野広紀社長



事業承継前からの従業員と障害者のスタッフが協業し、人手不足の解消につなげた福岡丸福水産の工場 =福岡市東区

島野さんは元タコपीー機や携帯電話の販売事業を手掛けていたが、2011年から福祉事業に乗り出した。現在は就労継続支援事業所やグループホーム、高卒資格を得るための通信制高校などを運営。「学びから就労まで」をワンストップで支え、グループで約180人の利用者がいる。軽度の障害者は移行支援などを経て一般就労を目指す。就労先の理解不足などで長続きしないことも多いのが実情という。

一方、業務用の魚の切り身やフライを製造する福岡丸福水産は、水産業全体の低迷などもあり、近年人材確保が難しくなっていた。企業の合併・買収(M&A)仲介会社の紹介で、昨年6月、Bコンティニューが事業譲渡を受けた。現在は承継前から働く20人余の社員に加え、Bコンティニューのグループ事業所から、軽度の精神障害や知的障害がある約15人が入り、バック詰めや箱折りの工程、清掃などを担当する。うち2人は社員として雇用されている。

工場長の一木光成さん(63)は「はじめは戸惑いしかなかったが、一緒に働き始めると全く違和感はなかった」と話す。受け入れ前には現場で研修会を開き、現在も月1回のミーティングで課題などを共有。他にも福祉の専門知識を持つスタッフが日頃から出入りしてフォローし、離職防止などにつなげている。承継前から働く社員にとっても、残業削減など労働環境改善を実感できているという。

人手不足の解消が業績回復にも結び付き、福岡丸福水産の承継後8カ月間の売上高は、前年同期比4%増で推移。Bコンティニューのグループには、冷凍食品加工会社や飲食店を営む事業所もあり、商品ラインアップの強化など相乗効果も出ている。

島野さんは「障害者は仕事ができないというイメージを、いまだに多くの企業が持ったまま」と指摘。「一人一人の適性を見極めれば戦力になる。今後も活躍の場を増やしていきたい」と話している。

(前田淳)